

¡Hola amigos!

R と N の Málaga からの手紙

(025号)

皆さんこんにちは。

このページは、私達のスペインでの日々の暮らしを友人・知人の皆さんに知って頂こうと思って開きました。 ですからごく私的なもので、読者のかたも大なり小なり私達をご存知だという想定で作成しています。そのつもりでご覧下さい。

各項の更新は不定期ですが、なるべく毎週末迄に何らかの更新をするつもりです。

更新日を確認の上各項目を選択してください。

2003年12月05日 R & N

目次	更新日
身辺雑記	2003年12月05日
食べある記	2003年12月05日
買い物百般	2003年12月05日
エクスカーション	2003年12月05日
ビーノあれこれ	2003年12月05日

ご注意 : 各項目のファイルは更新日から一ヶ月を経過したら削除します。

悪しからず。

* 身辺雑記 *

「タルヘタ更新申請」ノ巻 2003年12月05日 更新

テレビで天気図や雲の衛星写真をみていると、ビスケイ湾上空はものすごい事になっている様子です。あそこではもう地獄の釜の蓋が開いているのでしょう。カナリーのトマトを冬の欧州市場に運ぶ仕事を何シーズンかやりました。トマト・ジュースも沢山作ってしまいました。トマトそのものも梱包もヤワなのできわめて荷崩れしやすいのです。単価の安い商品ですから包装も安手である事は仕方ありませんが、そのツケは運送人に回ってくるのです。とにかく冬のビスケイは鬼門です。

「暑い夏の後の冬は寒い」の格言どおり、今年スペインはかなり冷え込んでいます。暖かい筈のこのコスタ・デル・ソルも私達の去年の経験より寒い気がします。テレビでも連日北海岸や内陸の大雪や厳しい寒さを報道しています。

ソレでも、ここではありがたいことに暫く雲ひとつない晴天が続いています。先日、北西の強風が続いた後でしたが、近くの海岸からさえ見覚えのあるアフリカ大陸の山が見えました。空気が澄みきってきたんですね。

今年はチョッと寒いね、といていた矢先、給湯器がイカレてしまいました。コンセルへのファン・カルロス氏に連絡すると、早速様子を見に飛んできてくれて、翌日すぐに新品と取り替えてくれました。この建物も回りの環境も決してベストではありませんが、こういう対処の速さはこの国では異例とも言えるもので何よりもありがたいのです。これはこの会社がというより、彼の個人的な特質なのでしょう。カディスへ引っ越したい気持ちには変わりはありませんが、こんないいコンセルへはまたと望めないだろう事は容易に想像がつき、その点は心残りです。

12月1日の月曜日、東隣の町にある国家警察(policia nacional)の分署に出頭、

1月半ばには切れる滞在許可証(タルヘタ)の更新申請に行ってきました。

第一回目のタルヘタが有効期間一年、と言うことは明白ですが、ソレを更新した二回

目が何年有効かとなると、どうもはっきりしません。二年とも聞くし、三年という話もあるし、四年と書いてある本もあってサッパリ分かりません。まあ、複数年であることは間違いないでしょう。こういうバラバラな情報の出所は、結局制度の曖昧さ故で、はっきりコレコレしかじかと明記されたものがないのではないかと、とさえ思いたくなります。まさかそんな事はないでしょうが制度がコロコロ変わることはありえます。もう一つは担当者の裁量に任されている部分があるのではないかとということ。例えば窓口の書類受付でも人によって微妙な差があるように見受けられます。

今回私達が提出した書類は次のようなものでした。

- 1) 居住許可更新申請書 (正) および (写) 3枚。
- 2) 年金証書のスペイン語訳に日本の外務省の認証 (アポスティールといいます) をつけたもの (写)。(正を提示)
- 3) 医療保険加入証明書 (保険会社発行)。保険証カードを提示。
- 4) 住居の賃貸契約書 (写)。(正を提示)
- 5) パスポート (写) 2枚。(正を提示)
- 6) 現タルヘタ (写)。(正を提示)
- 7) 写真 4枚。 以上七点は二人共それぞれに必要。配偶者はこれに加えて、
- 8) 戸籍謄本のアポスティール認証 (写)。(正を提示)

こんな調子でしたが、申請書のフォームをもらいに言ったとき、聞いた必要書類とは少し違うのです。去年第一回の申請をした時とも違います。おかしいじゃないか、と言うことは可能でもソノ抗議が通るとは思えません。無駄に争うよりもおとなしく言われた通りにした方が早いのです。喧嘩っ早いRですらこれだもの、ダカラ役人様の世界は・・・という事はこの際オイときましよう。

8) があれば申請者本人と配偶者の関係は明白で、2)も4)も夫名義なのですから、配偶者の書類には不要とも考えられます。事実去年はそうだったのです。でも今年は「ダメ」です。しかも隣の窓口の担当者に聞きながらです。分かっちゃいないんです。

7) の写真もサイズは明記してないので、去年はパスポート・サイズを用意してゆき

ました。窓口の女性は自分で専用の道具で小さく切って申請書に貼り付けてくれました。だから今年はそのサイズに切りそろえて持っていったのです。そしたら今度はそのうちの2枚は返されてこれでは小さすぎるというのです。

それじゃ初めから写真4枚、等といわずにコレコレのサイズ2枚、コレコレを2枚、と言えないもんかいなと思いますが、「必要書類」と書いてある紙にはただ写真4枚と書いてあるだけ、わかんないや聞けばいいだろ、ということでしょう。

急遽、近所の三分間写真やコピー屋に走って、何とかセーフ。ヤレヤレ。

さて、一応提出書類は受理されましたが、これからその審査があつて、その後に指紋押捺・手数料納入が必要な筈です。それがいつになるのか、これまた不透明です。

係りのセニョーラは三ヵ月後に来なさいと言うので、三ヵ月後とは3月1日の事かと聞くと、ウーン、大体よ、ダイタイ、と甚だ頼りないのです。三月ですね？と念を押すと、二月かもシンナイ。まあ、彼女にもワカンないことを聞いたこっちが悪かったゴメンゴメン。スペイン語では、大体、およそ、と言うのを **mas o menos** マス・オ・メノス(多かれ少なかれ)と言うのですが、彼女もそれ一点張り。

分署のこの窓口、即ち外国人の滞在許可申請を受け付ける所ですが、ものすごい混雑でビックリしました。去年11月に初めてここに来た時は行列などほとんど無かったし、指紋押捺の時も、タルヘタ受け取りの時も待たされた記憶がありませんでした。しかし、今度は人が溢れていました。その大部分は労働許可を兼ねたものの申請のようで、アフリカや南米からの出稼ぎのように見受けられました。

EUに加盟、特に去年一月のユーロ導入後、スペインの景気はかなりの上昇を示しているはずですが。少なくとも、この辺の建築ラッシュをみていると、恐ろしいくらいのスピードと量の開発が進んでいます。当然仕事は増えている筈で、ソレがこの窓口の混雑につながるのでしょう。

この日は天気予報では雨でしたが、幸い私達が外に居る間はポツツと来ただけで済みました。去年、申請に行った時の土砂降りを思い出して、覚悟して出たのですが結局傘はささずに済みました。

それにしても、イギリス人ってやつは何で傘をささないんでしょう。子供の時にあつ

た英国紳士のイメージは、まず、山高帽に細身のこうもり傘、でしたが、そんなスタイルの紳士に会ったのは、いつか「シティー」の近くを通る地下鉄に乗ったとき一度だけです。いく所へいけばそういう人も大勢いるんでしょうが、失礼ながらそのときは何となく滑稽な感じがしました。カンカン照りの上天気でしたからね。

この辺に大勢いるイギリス人はジーさんもバーさんもまずかさをさしませんね。雨模様の日に外出しようとして、チョッと外を見ますね。イギリス人がゾロゾロ歩いています、みんな傘なしです。アアやんだんだな、と思ったら大間違い、じゃんじゃん降っているんです。ドーなってんだと思います。最近、娘もささないみたい。***

(散歩道で見かけた名も知らぬ花・二点)



(ビン掃除のブラシ?)



(スクリュウ・プロペラ?)

食べある記 (及びタパス・デ・ラ・カサ)

「トスカ」の巻 2003年12月05日 更新

私達がまだ洩垂れか青二才の頃、名曲喫茶とか、うたごえ酒場なんてのがよくありましたね、同年配以上の方はご記憶だと思います。いまや世界制覇を果たした観のあるKARAOKEも唄声酒場の延長線上にあるのかも知れません。その頃の名曲喫茶なるものに、よくあった名前。その場合のトスカは歌劇・トスカか、指揮者・トスカニーニの頭だけ取ったかのどちらでしょう。

私達がテネリフェで泊ったアパルタメントの名前も「トスカ」でした。このトスカは何か？ スペイン語では toscó, tosca という形容詞があつて、洗練されてない、粗末な、粗野な、というようにろくな意味がありません。そんなものを店名にするわけありませんから、やはりこれも前者同様なのかも知れません。

トスカーナと言う地名ならイタリアにもスペインにもあります。でも地名の頭だけよりは指揮者の頭だけのほうが納得です。見るからにドイツ系らしい店主を見ると、同名のフランスの戯曲とは考えにくい。それよりも単に店主が歌劇が好きで、そのマンマ題名そっくりいただきという方が馴染む考え方でしょう。

まあ、そんな事はオイといて、食べる方の話です。アパルタメントの名前がトスカですから、その一階で営業している **bufé** ブフェ(ビュッフエ **buffet**)兼バルも当然同名です。そして私達のように三食つきの宿泊客への供食もここでするのです。

食事の形式は名前どおりのビュッフエ・スタイルで、私達のように限りなくベジタリアンに近く、かつ、目に見えない材料についてまで神経質ではない人間にはきわめて都合のいい食事です。量の調整も自由自在、好きなものを食べきれると思うだけ取ればいいので気楽です。私達のように日本が食糧難の頃育ち盛りだった人間には、食べものを皿に残すと言う事はどうも気分が良くないのです。スペインの「高級」レストランでは皿に少し残すのがマナーなんだそうですが、変なマナーですね。



(アパルタメント・トスカの食堂、ブフェとして外来客も受ける。でも誰も来ない)

スペインの旅行社が売り出すパック旅行の商品説明をよく見ると、どこかに必ずPCとかMPとかAD・SA・TIなど二文字の「注」がついています。

まずPCは今回の私達のように三食付きというやつ、**pensión completa** ペンション・コンプレータと言います。そのほかは：

MD：メディオ・ペンション **medio pensión**、朝夕二食付き。

AD：アロハミエント・イ・デサユノ **alojamiento y desayuno**、朝食付き。

SA：ソロ・アロハミエント **sólo alojamiento**、宿泊のみ。

TI：トド・インクルイド **todo incluido**、三食付きの上呑み放題！！

ガリシアに行った時はこの最後の「トド」という奴。スペイン版「百均」もトドと言いますが、私達は何処まで行ってもトドに縁があります。しかしこれは体にはよくありません。「放題」となるとツイ本性が出てしまって、旨くもない安ヴィノをガブガブやってしまうので、今回は自重してただのPC、インクルイドではないほうにしました。

jefe de comedor ヘフェ・デ・コメドール＝給仕長は60歳前後と見えるいかにもドイツ人らしい風貌の太っちょのオヤジ、悠揚迫らぬ態度、多分アパルタメントのオーナーなんでしょう。スペイン語も達者に話していましたが、ドイツ人の客にはドイツ語で話していましたから、まず間違いなくドイツ人でしょう。私達へは英語。

二番手はその娘らしいもっとドイツっぽい、キリきりっととした若い女性。事実上こ

の店を仕切っているのは彼女でしょう。てきぱきと、見ていても小気味のいいほどの確に動くし大勢の客にも満遍なく注意を払ってほかの従業員に指示を出しています。三番手はスペインには数多いペルーヴィアン風中年女性、誠実そのものジミ偏。最後はオ気楽スペイン・アンちゃん、ほとんど言われるままに動いているだけ。ビュッフェなんだから注文を聞いて運ぶのは飲物だけ、後は客がたった後のテーブル20卓の片付けだけですから、そんなに忙しい事ありません。

ビュッフェですからそうそう凝った料理が並ぶわけではなく朝は10種類位、昼・夜は14～5種類のトレイが並びます。特に「旨い！」と言うものはありませんでしたが旅行というツイ不足がちになる生野菜は毎日たっぷり取れて、旨い不味い以前にこれには十分満足できました。魚より肉、それも煮込みのものが間違いないようです。

或る日、ガスパッチョが出ていました。ソレまで無かったメニューなので早速スープカップにとって来ました。一口食べて、ン、と思いました。ヤケに味が濃いし、ピリッと辛いんです。二人で顔を見合わせていると、ドイツねーが飛んできました。エーっと、ソレはスープじゃなくソースなんです。エッ、そうなの道理で辛いと思った。ソウ、ソレはポテトや肉や魚につけて食べるんですよ。ヒュー、てなモンです。これはカナリー独特のモホ **mojo** というソースで、特にパパという小粒のジャガイモを塩茹でにしたものに付けるんですネ。そういえば新ジャガみたいなのが近くにあったっけ。早速そのジャガイモとついでに隣にあったロースト・ポークも一切れ。なるほど納得。小粒ジャガもポークもこのソースには良くあいました。失敗、失敗。

T I、トドではありませんから、食事の都度飲物の注文を取りに来ます。初日の昼食まず、ティントを注文しました。これがとんでもない代物で、思わずなんじゃコリヤというようなもの。極め付きの「サワー」かつ「アグワ」。もう一度懲りずに夕食にも注文しました。ソレっきり。次の日からは帰るまでずっとブランコで通しました。安い
どうにもならんヴィノは白に限ると言うのが、この一年の結論です。

以来、私達がテーブルにつくと4人のうち誰がサービスしてしようと、座るなり、ブランコ？ と、向こうから聞いてくれるようになりました。***

* 買い物百般 *

「メフィスト」の巻 2003年12月05日 更新

私達は二人共、靴には悩まされてきました。Nは外反母趾、Rはバンビロ・甲高。足に合う靴を探すのは至難の業で、仕方なく足を靴に合わせる始末。ところがNの靴はタブロイドの情報誌に出ていた広告で思いがけない解決を見つけました。小田急線長後駅近くのM靴店で、店主のシュー・フィッターに足型を取ってもらった上、彼の整形した靴を履いたところこれが大当たり。以来その靴オンリーでもう5～6年過ぎたでしょうか。ECCO ART という靴で、合う型は2種、色だって3種類しかなく、女性のファッションとしては満たされないものがあるでしょうが、長歩きしてもコタえないと言う実利は何よりも最優先でしょう。こっちへ来る事が決まった時、何を置いてもと、この靴をまとめ買いしてきました。まだ当分は大丈夫。

一方、Rにも合う靴が見つかりました。メフィストというフランスのメーカーの靴でした。メフィストなら何でもいい、というわけではなく、やはりそのうちの一つの型だけ。デモ、これは足を入れた途端、これは我が靴だと直感しました。何でフレンチの靴がピッタリなのか訳がわかりませんが、兎に角ピッタリ、全く何の抵抗もありません。以後この靴はカタキのようにはきました。適度の重さ、ソールの硬さも適度、エアー・クッションで膝に優しい、むれない、土踏まずもピッタリサポートなどそれまでに経験したことの無い快適さでした。買った時は3万円という値段がいかにも高い、と思いましたが結果的には安い買物でした。でも、ソノ直後、ベルギーの港町でおんなじモノを1万円で売っているのをみてショックでした。日本の流通業者が暴利をむさぼっているとしか思えません。

M靴店店主に言わせると、メフィストの靴はかかと部分がたっぷりし過ぎて日本人には合いにくい、のだそうですが、Rにはなんとも快適だったのです。何でRの下駄にしか合わないような足がフレンチに合うのか、摩訶不思議です。

この靴は実に良くはきました。人間ならもう勘弁してツカーサイ、と言うほど酷使し

ました。デ、とうとう履きつぶしてしまったのですが、再びM靴店店主によると、メフィストはスペインに工場を持って作らせているので、スペインならいくらでもある筈ですよ、とのことでした。だから安心してたんです。

ところが無いんですねーこれが。この一年、靴屋を見れば **Mephisto** の看板を探していたのですが、マラガを含む私達の行動範囲内ではついぞ見かけませんでした。たまに二、三足あってもソレはとても足が入りそうにないスマートなもので、「我が靴」ではありません。ところがグラナダに専門店があったんです。それを見つけたのは駆け足通過中の時だったので、アア、こんなとこにあったのかと横目で睨んでました。その後にもう一度グラナダへ行く機会があったのですが、あそこへ行けばアル、ということが分かるともう切羽詰った気持はなくなるもので、まあ、いいや、イザとなったら買いにいきゃイインダとこれまた見送ってしまいました。

今までは日本で履いていた日本製の靴で何とかだましていたのですが、最近足が小さくなってしまって、どれもこれもスカスカになって来ました。靴が古くなって伸びきったせいもあるんでしょうが、明らかに足がワンサイズ小さくなった感じです。

きついのも困りますが、ゆるいのも始末におえません。

スペインは革製品がお得意の国で、靴・鞆・皮コートなどかなり安い値段で売っています。だから、ここの靴が足にあってくれば問題は一気に解決です。しかし、どの靴屋のウィンドウを覗いても、ウーン、こりゃだめだ、と思うようなのばかり。いかにもラテンの伊達男が履くような、細身のトンガリ靴が主流です。スペインだって伊達男ばかりでもないのに、中年以降の世代はケッコウずんぐりムックリが多いのに、なぜか靴屋の店頭にはスマートな靴ばかりで、履いて合わせてみようともしえないものばかり。

それで、最近はおっぱらスニーカーに頼っていたんですが、こいつがまた安物なのでヤケニ軽くて、柔らかくて、どうにも頼りないんですね。軽きゃイイ、柔らかきゃイイと言うモンでもありません。少し長歩きすると土踏まずが痛くなります。

ソレでも、暑い夏の間はほとんどサンダル履きだったので、そう切羽詰っていません

でした。暑けりゃ長歩きも出来ないのではほとんど靴のことは忘れていました。涼しくなって、靴を履き出すと途端にまたコリヤイカン、です。やっぱり何とかしなきゃとは思っていましたが。そうは思いつつ、結局テネリフェにもこのスニーカーで行ってしまったのです。

テネリフェでは連日かなり強行軍でした。毎日一万五千歩から時には二万歩以上歩きました。案の定、土踏まずが痛い、コリヤなんともならんワイとっていました。ところが、プエルト・デ・ラ・クルースのわが宿から100メートルと離れていない所に大きなメフィスト専門の靴屋があったのです。

何かの間違いじゃないかと思いましたねー。70万都市のマラガにも無いのに、何でテネリフェでフレンチなのか。しかもでかでかと全品2～3割レバハス rebajas 割引の看板。一月半ばにはこの看板はアチコチに出ますが、まだ11月です。

まあ、この際文句を言う筋合いではないので、飛び込みました。ありましたねー、我がなつかしの一足が各色取り揃えで並んでます。

早速、寄ってきたニーちゃんにエスト！ セイス・メディオ・ポル・ファボール！思わず力が入ったようです。はいはいと取り出してきた一足、アッチャー、ぶかぶかです。ユーロ・サイズ6½, ソレが今までのぴったりサイズだったのに、足が痩せてしまったんですね。マス・ペケーニョ・ポル・ファボール。

ここでニーちゃんはチョッと困った顔をしました。ウン・モメント・セニョール、と言って店の奥へ行ってしまいました。そして店主らしい太っちょとなにやら話しています。

彼が持ってきたのは「我が靴」とは違うタイプ。エスト・エス・セイス、はい六ですよと言うのです。ダメなんです。長さはなるほどピッタリですが兎に角「キュー靴」やっぱりタイプはただ一つ、例のでなければ合いません。ニーちゃんもRが足を入れた途端、コリヤダメだという顔をしましたね。

ソレからのこのニーちゃんの奮闘振りは特筆モノで、片っ端から靴箱を開けて調べ始めました。そしてニッコリと取り出した一足、「我がタイプ」でしかもサイズは6。ピッタリです。色は当初買うつもりでいたものではありませんでしたが、この際色まで言ったら彼の奮闘に失礼というもの。バレ・エストゥペンド（オッケー・ベリー・

グッド)。ニーちゃんもとてもうれしそー。

靴紐だけは長いものに替えてもらって、ハイ110ユーロ。日本のデパート値段では多分今でも3万円という値札がついているはず。そのまま履いて帰る気配は察したと

見えて、向こうから箱は要りませんか？ ハイハイいらないよ。

ムーチャ・グラシア・セニョール、アディオ。グラシアス・アディオス。

彼らの語尾のSの発音はほとんど聞えないのです。

それにしても、西欧人はガタイは大きくても足は小さいと思っていたのに、Rのサイズ、(バンビロ・甲高の)「6」というサイズがこんなに少ないとは。それともこんな

不細工な靴を履くのは熊のような大男が多いというのか？

その日からスニーカーはもうお払い箱。早速この靴に頼りつきり。帰る前の日もソノ前の日も2万歩以上歩いたのに、痛かった土踏まはずは段々よくなって、うちへ帰って

来たときはほとんど痛みを感じないようになりました。

こうなったら、又靴を買いにテネリフェへ行ってもいいくらい。一月にはスペイン中

レバハスの看板だらけになるしね。***



(これがソノ不思議な靴二代目。ファッションの国とは思えない、ずんぐりムックリ)

エクスカーション

「カナリア諸島」ノ巻・その二 2003年12月05日 更新

(二日目・Puerto de la Cruz)

テネリフェは西経16度から17度の間にあるのに時間帯はイギリスと同じ経度0度のものを使っています。また私達が住んでいる所は西経4度半なのに使っている時間帯は東経15度のものです。両方とも本来使うべき時間帯より一時間以上東方の時間を使っているわけです。だから、ここは緯度が低いのに夜明けが遅いことは同様で、私達のところとほとんど同じ、八時チョッと前でした。

昨夜、寝たのは結局三時過ぎでしたから、眠い目をこすりながらカーテンを開けるといっぺんに眼がさめました。窓の外はこんな具合。大西洋一望です。180度とはいきませんが140度か150度という広がりです。セイセイと水平線が広がっています。





窓を開けてベランダへ出ると目の前は漁船の船揚場。防波堤は右手の方へ突き出しているんですが、何しろその先は直接大西洋ですからとてもウネリまでは防ぎきれません。だから漁船を港内に繋ぎっぱなしというわけにはゆかず、ソノ都度この白塗りのクレーンで吊り上げて陸置きするんですね。これから冬の北大西洋のうねりが大きくなると、船を下ろす機会も少なくなるのでしょうか。

私達がここを選んだ理由はただ一つ、このロケーションの良さでした。ほかにも同程度の料金で四つ星や三つ星ホテルもあったんですが、いずれも海岸線からは大分離れていたのが気が進みませんでした。ここはホテルではなく、アパルタメントといわれる滞在型の宿泊施設で、こういう所はサービスの点でも内外装のしゃれっ気の点でも普通のホテルよりは一段落ちと考えられます。ホテルとはっきり違う点は部屋に炊事の設備と什器が備わっている事です。

私達の住んでいる所も全く同じ性格のもので、ホテルと違うのは星の数の代わりに鍵の模様で格付けをすることです。私達の住んでいるアパルタメントは鍵一つですが、ここは鍵三つです。その違いの大きい要素はロケーションの良し悪しでしょう。このアパルタメントの位置や部屋の設備などは、旅行社にある資料で分かっています。

た。建物のグレードはパツとしませんが、海に近いというのが決定的でした。しかし私達はオフエルタ (oferta) という特別割引商品を買っているので海の見えるいい部屋に当たるか否か甚だ心もとなかったのです。全ての部屋の造りが同じという事も不安材料でした。海に近いからと選んだのに山側の部屋じゃマヌケな話ですよ。

デモ少ない可能性にかけたのです。結果は大当たり、五階建ての四階（日本式には六階建ての五階）目の前が大西洋でした。次の写真が、その定宿のトスカ **Tosca**、ベランダの手摺が緑っぽい部分の最上階が四階で、私達の部屋は右から六番目です。

朝食もそこそこに早速付近の散歩に出かけました。外へ出て裏山を見るとこのように雲が一杯で山頂付近は全く見えません。部屋から見た海はいい天気だったのに山腹ではどうやら雨さえ降っている気配です。このことはこの島にいる間ずっと繰り返された事で、北海岸に面したこの町と、反対側のRにはおなじみのサンタ・クルースという港は直線距離では30キロもないのに全く違う天候なんです。快晴、と思っけても10分後にはもう雲が湧くという状態です。以前、冬の舞鶴に入港した時、「弁当忘れても傘忘れるな」という言葉を聞きましたが、この町もまさにその通り。





(アパルタメント前の船揚場防波堤をこえて北西の方角を見たところ、快晴)

長年サンタ・クルースの冬を経験していたRも北海岸のこのウェットな変わりやすい天気は思いもよりませんでした。サンタ・クルースへ度々来たのはカナリーの野菜・果物を欧州市場に運ぶためでしたが、定期運行のスケジュール調整のため短くても2～3日長ければ4～5日の沖待ちがあるのが普通でした。その時の経験からこの辺の冬場はカラカラ天気で暖かいとばかり思い込んでいたのです。でもそれは冬の太平洋岸と同じ事で、日本海側にあたる北海岸の様子を知らなかったのです。



(これは反対側、南東方の山並。次々と雲が湧き上がる。沖は快晴、山は雨)



プエルト・デ・ラ・クルース中心部。真中の少し上に10・11・12という白抜き数字が見えますね。11と12のすぐ右下のブロックにわが宿トスカがあります。右下の緑の部分は小高い丘になっていて、五つ星ホテルや「高級」レストランが点在する地域。全体が公園で下端中央の少し右、一段と高くなった所にはカジノがあります。それには私達には無縁ですが、この辺からの町全体と大西洋の眺めは文句なしです。

図の中央付近、道路が黄色になっている部分は全てホコテンです。バル、レストランテ、カフェテリア、土産物、ブティック、時計・宝石店、葉巻屋、酒屋等がひしめく一角。私達の一週間の「家」はその海側の外れになります。

9時半から旅行社のセールスが宿に来てエクスカーションの説明会をやるというので朝の散歩は適当に打ち切って宿に帰りました。

私達は宿と往復の足以外は行き当たりバッサリのつもりでしたが、スペイン最高峰というこの島の中央部の山テイデ **Teide** の火口部分の溶岩原、不思議な木 **Drago** ドラゴ、周辺の島々、特にラ・パルマ **La Palma** とゴメラ **Gomera** などは是非見てみたい、それには旅行社のエクスカーションに乗っかるのが、安いし、一番手っ取り早いと考えていました。

アパルタメントの談話室での説明会に集まったのは12～3人。全部スペイン人のよ

うでした。昨夜ここでバスから降りたのは私達二人だけで、今朝のこの説明会へ来ている人たちは、昨日中に着いたという事と私達と同じ旅行社のツアー商品を買ったという事だけが共通点で、ツアーの内容も、何処から来たのかもマチマチです。

セールスに来た旅行者の女性もスペイン語オンリー。でもこっちが「客」の立場にいる限り片言でもそう困ることはありません。逆の立場だったらお手上げですけどね。エクスカージョンは20種類以上用意されていて選り取り見取りです。ただし往復の航空運賃や宿泊料金の安さから見ると全体に高目で、旅行社はこの部分で少し儲けさせてもらおう、という魂胆のようです。周りでは値段表をみてウンとうなったり、ため息をついているのが聞こえました。私達が選んだのは結局次の三つ。

(1) 北西海岸探訪、目玉は怪樹ドラゴ(Drago)見物。水曜日。

(2) テイデ山火口原探訪と鷲公園 Parque las Águilas 自然動植物園。木曜日。

(3) ゴメラ島 La Gomera 周遊。金曜日。

今日は火曜日ですから、明日から三レンチャンです。期待していた La Palma ラ・パルマへは船では時間が掛かりすぎるし、飛行機ではコストが高すぎてエクスカージョンとしては商品にしにくらしく、この旅行社では扱っていませんでした。

土・日の二日は自由行動でのサンタ・クルース探訪とこの町周辺をゆっくり散歩することにしました。最終日、月曜は近くの散歩だけの予備日。

初めにそれぞれの商品についてかなり長々と説明があり、写真入のパンフレットもあるのに、では申し込み受け付け、となるとそれぞれが長々と質問。それに答えるほうも、(私達にはサッパリ分かりませんが) さっきあんなに丁寧に説明したのにまたもや長々と回答。これはスペインの何処でも見かける光景で、商店でも役所でも、果てはバスの乗車口でさえも全く同じ、一人の質問者に何を説明するのかエンエンと話しています。そのために後ろがどれだけ詰まろうと全く気にしません。何かの案内を掲示板などで説明するというのをしないし、多分案内を掲示しても誰も読もうとせず、やはり聞くんだと思います。ダカラ掲示板などないのです。要するに、聞く方も答える方も、話すことが、オシャベリが好きなんですね。親切と言うべきか？

こんな調子ですから、エクスカージョンの申し込みをするにも、一組一組エンエンと

セールスと何かを話し合っています。2～3年前のRならとっくに席を蹴って立っていたでしょうね。ホントに気が練れてきたワイと我ながらビックリ。

漸く私達の番が来て、質問は一つ、注文は2～3分で終り、スペイン語が分からなくてもこれですむのに、皆ナニしてんだか。イヤ、分からないから早く済むのかな？

2) のテイデ山は本当は「ロープウェーに乗って山頂付近まで行く」というのを選びたかったのですが、何せこの山は標高3718メートル、山上駅3555メートル。高山病に弱いRにはとても堪えられそうにありません。富士山五合目でもひどい目に会ったほどですからとてもソノ上にはいけそうもありません。デ、それは見送り。

結局、説明会場から出てきたらもうアルムエルソ（昼食）の時間。昼食後は勿論シエスタ。午後、と言うより日本の感覚では夕方、ですが、五時ごろからまた町の散歩。

夜明けが遅い分日暮れも遅くて七時過ぎまで明るいです。

それでは、宿や町の様子を何点かご覧下さい。



トスカの入り口。右下に見えるATとその下の鍵マーク三つ。ここはホテルじゃないよ、アパルタでは最上級(?)だよ、という印



上左は私達の部屋、ツイン・ベッド。ワードローブの裏は簡単なキッチン。その向こうにバストイレ。この形式の部屋をエストゥディオ **estudio** と言います。日本式に言えばワンルーム・マンションでしょう。でも、ユニット・バスではなく、フル・サイズのバス・タブとビデつき。床は人工大理石、壁はスペイン風絵タイル。

右上はベランダから下を見た朝の様子。右側の渚は船揚場のどん詰まり。11月末だというのに日中は誰かが必ず泳いでる。下2枚は日暮れ前と夜11時の同じ場所。本来は船置き場だった筈の角の空き地に五軒の屋台が店をあけます。一番手前は花屋次がアイスクリーム・駄菓子屋、次の二軒は焼き栗屋兼簡易バル、プラ椅子やテーブルも並びます。一番右は貝やエビ・カニなどを売る店で朝だけ。このコーナーが一番賑わうのは夜遅くなってから。

この写真では判別できませんが、深夜だというのにバギーのアカンボは居るしヨチヨチ歩きもちろちろしています。ツタク。町中観光客が溢れている中で、この一角だけはスペイン人の比率が断然勝っている特別な場所。元、漁師部落だったせいかな？



上左はトスカのエントランス前、赤いパラソルはトスカのバル・テラサ(テラス)。とにかく空き地といわず道路といわずテーブル・椅子が置ければどんどこでもバルに早変わり。さすがに車道にまでは出っ張りませんが、広い歩道というのは事実上ないも同然。人がやっとすれ違える位の狭い歩道だけが、純粋な意味で本来の歩道として機能しています。このトスカ前はホコテン道路ですから、もう大威張りでバル営業。

右は、この項の二枚目、ベランダから港を見下ろした写真で、右隅に写っている建物のパティオ(中庭)の二階。外装は石造り、内装はテカ teca(チーク)贅沢なモンです。これは税関の建物だったというんですが、こんな小さい港にも昔は税関があって入港税などを取り立てたり、密輸の取締りをやっていたんでしょうか。

今日では勿論こんなちっぽけな漁港は開港(関税法上、貿易港と認められる港)ではなく外国船が入ることもないので税関もありません。市の施設として見学者に無料開放していて、一階では市の物産即売店をやっています。それにしても昔のお役所の優雅なこと、パティオにチークのバルコニーですからねー。昔、お役人が偉かったのは何処の国も同じ。ドコカとどこかの国は今でもお役人がエライ。「ムカシ」からヌケられないのか一般市民がそれを正そうとしないのか？ 出来ないのか？

この町を歩いて、まず気が付いた事はドイツ語の氾濫。行き交う人の半数以上がドイツ人じゃないかと思うほどD、D、D。ここではBもAもFも形無し、勿論Jの姿は全く見えず。それでも、カノCの料理店はしぶとく根付いていて、アチコチで見かけました。トスカのフロントのセニョリータも英語は片言なのに、Dはぺらぺら。

レスタウランテの外に張り出してあるメニューも真っ先にドイツ語。いやはや。***

* V I N O *

「Orotava のビノ」の巻 2003年12月05日 更新

オロタバ Orotava という所は私達が泊ったプエルト・デ・ラ・クルースから急な坂を登っていった山腹にある町で古くから手工芸で有名なところだそうです。

おみやげ屋などにずらっと並んだそれらの手工芸品のなかには日本のものにも通じる味を持つものがありました。例えば、焼き物、すかし彫り、刺繍、マクラメ、その他色々な木工、石工、皮細工などなど。

しかし、ここも後継者不足と見えて年々生産量は落ちているのでしょう。特にランダ・デ・カナリアス Randa de Canarias と呼ばれる刺繍などは、土産物屋などに並んでいるもののうち中国製の模造品が7～8割以上を占めているような状態です。

市政府もこれには危機感をもっていると見えて、プエルトの町にも市営の売店をいくつか開いていて、そこでは純正品を職人から直接買い上げて保護しているようです。

私達もそういう市営の売店で小さいテーブルセンターを買いましたが、それには市の純正保証ラベルが付いていました。それにしてもやっぱり「C」は遅しい。こんな離れたカナリアの特産品までもソノ模造品で席捲してしまうんですからね。しかもいいものは本物とチョッと見には判別できないほど精巧で、私達も街の土産物屋で気に入ったのがあったので買おうとして、ラベルを良く見たらメイド・イン・Cでした。

勿論この町、手工芸のみの町ではありません。この島の北海岸一帯は海から吹き寄せる風が雲を呼び、十分な水分を地上に落としてくれるし、雲が晴れば南国の強い陽光にも恵まれているので、農作物も豊富に出来るのだと思います。ソノ中にまずバナナが有ります。バナナには北海岸の雨が必須でしょう。カナリー・トマトはハウス栽培が主でこれは南海岸でも見ますが、バナナは北でしか見かけません。山腹の比較的平らな部分はバナナ畑、そしてソレより高いところへゆくと葡萄畑の登場です。



(山の中腹から見たプエルト＝左前方と右の小山の向こう雨に霞むオロタバ)

こんな風に山腹全体が雨に包まれているようでも、又すぐ太陽が顔を出します。バナナにはもってこいの陽気なのでしょう。カナリー・バナナは丁度台湾バナナのように小ぶりで味がいいので人気があります。Rも欧州市場へ運んだ事がありますが産額は知れたものだし、生産コストの点で中南米産には太刀打ちできず輸出総量はたいしたことは無いのでしょうか。しかし国内には出回っていて私達の町のスーパーでも少し高目ですが売っています。いろんな面で日本で買う台湾バナナに似ています。

下の写真がそのバナナ畑、上の写真と同じ時に写したのですが、山の方の暗さと沖の明るさの差が分かって頂けると思います。暫くすると山もまた晴れてきて、降りっぱなしという事は少ないようです。



こういう天気が葡萄にもいいのかどうか知りませんが、ガリシアでも葡萄畑は山の斜面や谷あいが多かったように思います。そういえばカリフォルニアでもチリでもオーストラリアのでも何々ヴァレーと銘うったものが多いですね。ドイツ・ワインのことは良く知りませんが、ラインとかモーゼルとか川の名前を冠しているからにはやはり溪谷沿いの斜面が主産地なんだろうと思います。



これがそのオロタバのビノの白と赤。ラベルの絵の通りこの島の火山、スペイン最高峰のテイデ **Teide** の名前を付けてありますが、スペルが **Tehyda** となっています。ラベルにも説明は無いので単に推測に過ぎませんが、これはカナリアの先住民グワンチェ **guanche** のグアンチェ語ではないかと思います。ガリシアほどではありませんでしたが、時々明らかに標準語の綴りとは違うなと思える地名がありました。

Denominación de Origen, Valle de la Orotava の字が読み取れますか？ やっぱり **Valle=Valley** 谷間なんです。山腹はU字谷の連続です。

この二本は初めから持って帰るつもりでチョッと奮発して買ったものですが、ほかにも何本か買ってソレはみんな現地で飲んでしまいました。いずれも悪くありませんでした。この島のモノは産額はほんの少しなのでしょう。現地では普通のスーパーにも並んでいますが、私達の町のスーパーでは全く見たことがありません。たとえあったとしても、私達の常用にできるような値段ではありません。***
